

磐城時報

日刊 一頁 印刷部 編輯部 發行部 電話 廣告部 印刷部 編輯部 發行部 電話 廣告部

大口預金者全部 磐銀整理案承認

八百名のうち百名は承認済

磐城銀行の整理案に對し一般預金者等のため危険頗る多く再三改定して建設する、勿來神社は百萬金者が如何なる態度に出づるか修説あるも立消えとなり去る知圖の建設費を以て來年四月には多大の注目をばらばはれてゐるが事巡視の際も同隧道改修急務を社務所を建設する、運びに至つ平町に於けるこれが預金者會、哀願し實地檢分迄され地方選出であるに拘らず未だその解決を(株化する大口預金者のみ)三十縣議に依頼しその促進を計つてせす地方民は極度に怨嗟しつ、日午後二時から平町同樓上に居り勿來町又町會の決議によりある、よつて同部警渡邊梅吉郎於て開催した、通知者百十名の同隧道改修工事に對する土地買小野七五郎氏等は改修促進請願うち三十名來會、銀行側から收費五百四十圓を計上しその實陳情をする筈である。

磐城訓盲院の 縣立移管陳情

本縣では縣立の盲聾學校を建松隊から數臺の機關銃を借受設すべく準備中であるがその計一層精彩を添へる筈である。訓による縣立は一ヶ所に建設する方針であるらしいが、本縣は地勢上一ヶ所の大規模なものより各方面に小規模のものを建てた方が教育普及發達上利益であらうといふ理由で平町では磐城訓盲院を縣立に移管するやう陳情書を提出し實現を期する事になつた。

隧道工事 促進陳情

石城郡勿來町九面より茨城縣平月下旬を期して平町を中心に聯合演習を行ふ計劃を立て目下夫を改築して演藝俱樂部となし從福島兩縣境にあり土砂崩れ、落夫準備中であるが、この際は若業員の娛樂場に充てゝるたが三

石城郡下の 青年聯合演習

石城郡下各町村の青年訓練は本町入山炭礦では豫て礦業事務所を第五坑入口に移轉し舊建物合演習を行ふ計劃を立て目下夫を改築して演藝俱樂部となし從福島兩縣境にあり土砂崩れ、落夫準備中であるが、この際は若業員の娛樂場に充てゝるたが三

入山菊花品評會

湯

十日より一週間從業員の菊花品評會を開催中に入賞者には賞品記念品を贈呈するので出来榮見事である。

内務技師の 歡迎會

平町才植小路荒木ヨネ(二五)はでに接した平署では、この辻強盗の犯人を嚴探中であるが被害者の語る所によれば、二十六七歳前後中肉中背ジャケツを着た長髪の青年で磐城炭礦鐵道引込線の角の附近で待ち伏せせたらしヨネが電柱の下で時間を見ようとして居る其隙を規つておそいから金時計を強奪し折柄前方から三名の婦人が來合せたので其儘逃走したものでらしく平署では高坂附近の居住者でないか其方面捜査をなしつゝある

父親と情を通じ 二兒を墮胎した娘 懲役四ヶ月に不服

石城郡荷路夫村大字大久保緑川月二日妊娠七ヶ月の男子を同様キミイ(二三)は去る大正五年十月墮胎して裏山に埋めた事發覺植八歳の當時から實母の内縁の夫田署に檢舉され平區裁判所で懲小野正重(三二)と情を通じ大正四ヶ月の判決言渡しをうけた十四年私生兒秋産を産み更に昨がキミイは之れが判決言渡しを一年一月妊娠四ヶ月の男児子を流産不服であるとして福島地方裁判所を用ひて墮胎し更に本年八所に控訴した。

縣參問題の 成行

石城民政黨縣參問題は若松派の策謀から部會の決定によつて事となつて長老漆畑、箱崎、志賀、小松、草野の五氏を委員に擧げた、擧げられた委員にして見ると貧乏籤を引いた様なものだ、ナゼかと云つて委員連中が野崎とか、若松とか、ヨシ決定した處、兩派の連中は本部に對し或一部の會合に依つて選舉せられた委員の決定は眞の部會の意志では無いから、其決定は意義の無いものだとチヂリ込まれるとアノ部會が全黨員に通知して開いたものでないだけに、本部も裁定に困る事になる。殊に來る五日の委員會には兩派の壯士連中が張り込んでア、でもない、コツでも無いと騒ぎ立てる事は必定だから委員の決定としてドテラかを發表しても一騒動はまぬかれないアノ老いボレ連中事情に通じないとして兩派から指彈されるから、ドク決定しても惜まれぬこと、實められる事には無い、殊に民政黨の縣參争ひは石城許りでない、各方面共に相當波瀾があるから、石城許り部會で決定したに於いて他が纏まりがつかないこと

紀念章傳達

平町の御大典紀念章傳達式は一日午前九時から平町元平商業學校で行つた。

辻強盗 現はる 婦人の金時計を強奪

内十五ヶ所に消防用コンクリート貯水池を造つたので之れが表彰を行つた。

四倉野犬撲殺

四倉野犬撲殺 四倉

留守宅で 盜竊

石城郡内郷村大字御所生れ當時住所不定無職野木末松(七六)は乞食に化けて留守宅に入り泥棒を働いてゐたが、三十一日午前十時頃同村大字御所氏名不詳宅に忍び込んで現金四圓を盗んだ處を平署に捕はる。

豊間消防組 表彰

石城郡豊間村消防期檢閱は一日午前十時同村屋崎海岸で舉行したが、平署から縣警部補出張檢閱後同消防組が昨年來村の生産高は一日約八十車である

貧乏籤をひいた五長老

石城民政黨縣參問題は若松派の策謀から部會の決定によつて事となつて長老漆畑、箱崎、志賀、小松、草野の五氏を委員に擧げた、擧げられた委員にして見ると貧乏籤を引いた様なものだ、ナゼかと云つて委員連中が野崎とか、若松とか、ヨシ決定した處、兩派の連中は本部に對し或一部の會合に依つて選舉せられた委員の決定は眞の部會の意志では無いから、其決定は意義の無いものだとチヂリ込まれるとアノ部會が全黨員に通知して開いたものでないだけに、本部も裁定に困る事になる。殊に來る五日の委員會には兩派の壯士連中が張り込んでア、でもない、コツでも無いと騒ぎ立てる事は必定だから委員の決定としてドテラかを發表しても一騒動はまぬかれないアノ老いボレ連中事情に通じないとして兩派から指彈されるから、ドク決定しても惜まれぬこと、實められる事には無い、殊に民政黨の縣參争ひは石城許りでない、各方面共に相當波瀾があるから、石城許り部會で決定したに於いて他が纏まりがつかないこと

